

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

果樹カメムシ類の発生状況と防除の徹底について

本年はチャバネアオカメムシの越冬密度が高いことから令和8年3月25日付けで病害虫発生予察注意報第4号を発出して注意喚起を図ってきたところですが、5月上旬の果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の予察灯での誘殺虫数は平年より非常に多く、一部地域では、果樹園内への飛来が確認されています。

については、今後の果樹カメムシ類の動向に注意し、果樹園への飛来が確認された場合は、下記事項を参考に早急に防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



チャバネアオカメムシ（左）とツヤアオカメムシ（右）

記

1. 発生状況

- 1) 県内2ヶ所に設置している予察灯では、5月上旬の誘殺虫数が平年より非常に多くなっている（図1）。なお、県内7カ所に設置しているフェロモントラップでの誘殺虫数は平年並で推移している（データ省略）。
- 2) 5月上旬頃から、県内の一部の露地ミカン、スモモ等の栽培園で果樹カメムシ類の飛来が確認されている。
- 3) 福岡管区气象台が5月7日に発表した九州北部地方の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になり園地へ飛来する可能性が高い。

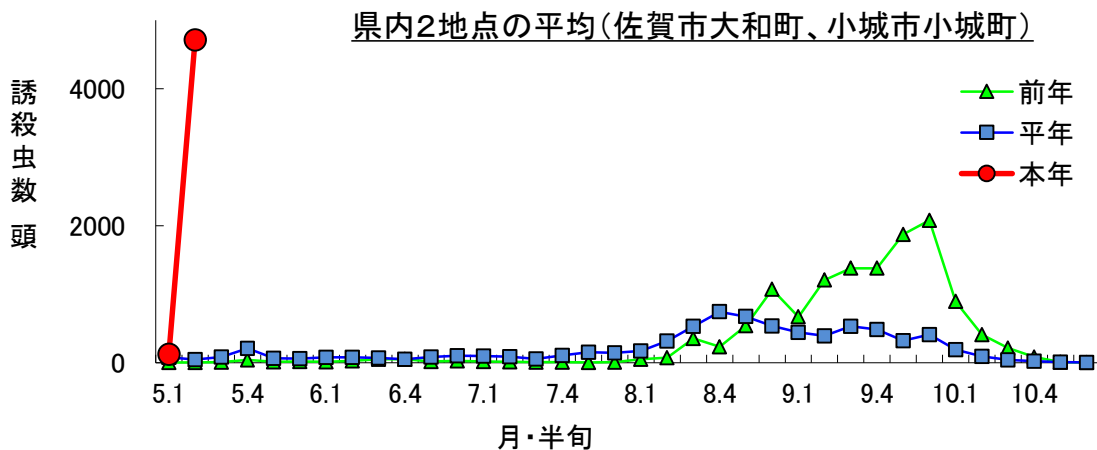


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺虫数

2. 防除対策

- 1) 飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見に努める。
なお、この時期に飛来が確認されなくても、越冬成虫は7月末頃まで果樹園へ飛来する可能性があるため注意する。
- 2) 果樹カメムシ類は、園内に侵入後、集合フェロモンを放出して同種を誘引し、集団で加害するため被害が大きくなる。そのため、果樹園への飛来を認めたら、早急に合成ピレスロイド系薬剤又はネオニコチノイド系薬剤を散布する。防除薬剤は「佐賀県病害虫総合防除計画」を参照する。
- 3) 合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤の残効期間は10～15日程度である。なお、ネオニコチノイド系薬剤は、30～50mm程度の降雨で防除効果が低下する。この残効期間を過ぎた後や、ネオニコチノイド剤散布後に30～50mm程度の降雨の後には園内を確認し、果樹カメムシ類が確認されたら薬剤を再散布する。
- 4) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ目以下）を設置する。
- 5) 防風樹または果樹園周辺にヒノキ・スギが植栽され、増殖源となる球果が結実していれば結実部を刈り込んで除去する。
- 6) 今後の発生状況については、当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にする。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ二次元-



防除計画二次元-

